SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

狩野謙一先生をおくる・略歴・業績目録

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 静岡大学地球科学教室
	公開日: 2013-08-28
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 塚越, 哲
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7424

狩野謙一

狩野謙一先生をおくる

理学部地球科学科教授・狩野謙一先生は平成25年3月をもって定年を迎えられました．

狩野先生は，昭和22年6月2日に東京都にお生まれになりました．昭和47年3月東京大学理学部を卒業，同49年3月に東京大学大学院理学系研究科修士課程を修了，同49年9月に同大学院理学系研究科博士課程を中退して翌10月に東京大学理学部に助手として着任されました．昭和54年3月東京大学より理学博士を授与され，翌4月には静岡大学教育学部講師に着任，同58年4月に助教授に昇任されました．昭和63年4月には理学部へ転任され，平成5年10月に教授に昇任されました．この度の定年退職を迎えられるまで一貫して構造地質学の研究・教育に努められました．

研究面では特にご専門の構造地質学の視座から，地元静岡県と隣接地域にまたがる赤石山地を中心とした詳細な野外地質調査を行い，付加体の形成過程を実証的に解明してゆきました．この研究成果は，日本列島全体の地帯構造発達史の理解に新しい展開をもたらし，日本の地質学の発展に大きく貢献されました．これらの研究成果は，静岡県の20万分の1地質図をはじめとした多くの図幅や教科書に採用されており，今なお確固とした学術的基盤を形成しています．

狩野先生はまた，多くの著書を出版されました．特に「構造地質学」（朝倉書店／1998年）において記された日本列島の成立を理解する上で不可欠な項目，すなわち付加体，メランジュ，活断層・地震断層と地震，活褶曲等に関する詳細かつ平易な解説は，現在でも高く評価されており，地球科学系の書籍としては他に類をみないほど普及した名著となりました．その他にも，学部学生向けの教科書を含めて数十冊を著され，日本の地質学分野における教育・普及活動に多大な貢献をなされました．このことは，平成24年9月に日本地質学会から学会表彰を授与されたことにも顕れています．また狩野先生は，国や地方自治体，学会などで数多くの委員を歴任されてきました．近年では，地元静岡県の南アルプスを世界自然遺産に登録を推進する取組やジオパークの整備等に尽力され，先生のもつ豊富な知識・経験はご退職後も惜しみなく投入されることでしょう．

狩野先生は根っからの「野外好き」で，一時はキャンピングカーで通勤されていたこともありましたし，フィールドでのガロンハットとジーンズ姿は先生のスマートな風貌にとてもお似合いでした．近年の学生はともすれば野外調査を疎んじる傾向が見られがちですが，最後まで地球科学の神髄である野外調査に情熱を傾けられ，「歩いて調べる野外地質学の研究室」として正統派を全うされました．そのご尽力は形になり，優秀な卒業生・大学院修了生の多くが地質コンサルタントなど専門分野を生かした分野を中心に，現在幅広く活躍して静岡大学地球科学教室の名を高めています．

狩野先生は学内外の両面において，これまで数多くのご貢献をされてきました．口数が少なく，終始洒脱なふるまいをされながら，決して本質を外すことのない狩野先生の存在は，多くの同僚や学生たちの心に深く刻まれています．このたびの狩野謙一先生のご退職はまことに残念でありますが，今後のますますのご活躍とご健康を祈願して，おくる言葉とさせていただきます．

2013年3月

理学部地球科学科
学科長　塚越　哲

狩野謙一先生の略歴

学　歴

昭和45年３月　東京大学教養部理科二類卒業
　　47年３月　東京大学理学部地学科卒業
　　47年４月　東京大学大学院理学系研究科地質学専門課程修士課程入学
　　49年３月　東京大学大学院理学系研究科地質学専門課程修士課程修了
　　49年４月　東京大学大学院理学系研究科地質学専門課程博士課程入学
　　49年９月　東京大学大学院理学系研究科地質学専門課程博士課程退学

職　歴

昭和49年10月　東京大学理学部助手
　　54年４月　静岡大学教育学部講師
　　58年４月　静岡大学教育学部助教授
　　63年４月　静岡大学理学部助教授
平成４年10月　Auckland大学名誉客員教授（平成５年９月まで）
　　５年10月　静岡大学理学部教授
　　12年６月　通商産業技官（工業技術院地質調査所地殻物理部）併任（平成13年３月まで）
　　23年４月　静岡大学防災総合センター教授併任（平成25年３月まで）
　　25年３月　定年退職

学　位

理学博士（第4860号）（東京大学）　昭和54年３月12日
論文名　Giant *deckenpaket* and olistostromes in the eastern Mino district, central Japan

表　彰

平成24年９月15日　日本地質学会学会表彰（日本地質学会）
　　「教科書の発行と構造地質学の普及への貢献」

学内における活動

平成８年４月　部内教務委員長（平成９年３月まで）
　　９年４月　理学部生物地球環境科学科（地球科学科）長（平成11年３月まで）
　　14年４月　部内経理委員長（平成15年３月まで）
　　19年４月　部内学生委員長（平成20年３月まで）
　　20年４月　理学部地球科学科長（平成22年３月まで）

非常勤講師

年度不明　　東京大学理学部（２回）
年度不明　　千葉大学理学部（２回）
平成７年度　　神戸大学理学部
　７～15年度，22年度～　静岡理工科大学
　13年度　　新潟大学理学部
　13年度　　名古屋大学理学研究科
　21年７月　山口大学理学研究科

所属学会

昭和47年　日本地質学会（現在に至る）
　52年　日本地震学会（平成19年まで）
　52年　静岡県地学会（現在に至る）
　53年　日本第四紀学会（平成24年まで）
　63年　構造地質研究会（平成24年まで）

学会における活動

平成10年１月　構造地質研究会会長（平成12年３月まで）
　10年４月　日本地質学会構造地質専門部会部会長（平成12年３月まで）

学会・社会における活動

昭和58年　　大学入試センター試験問題検討委員会委員（基礎理科）（昭和60年まで）
平成14年８月　原子力環境整備促進・資金管理センター，高レベル放射性廃棄物処分技術開発委員会（地質環境調査技術WG）委員（平成15年３月まで）
　14年９月　日本地質学会評議員，執行委員，理事，地質学雑誌副編集委員長・委員長，各賞選考委員会委員・委員長，など（平成20年５月まで）
　15年５月　国際陸上科学掘削計画（ICDP）国内実施委員会委員（平成16年３月まで）
　15年４月　文部科学省・糸魚川–静岡構造線断層帯調査研究運営委員会委員（平成21年３月まで）
　19年４月　南アルプス世界自然遺産登録推進協議会・総合学術検討委員会委員（現在に至る）
　20年７月　静岡県環境審議会委員，同地下水部会部会長，温泉部会副部会長，自然公園部会委員（現在に至る）
　21年６月　静岡県地学会会長（平成25年６月まで）
　21年８月　日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査委員（平成22年７月まで）
　22年２月　環境省・リニア中央新幹線環境影響評価委員会委員（現在に至る）

業　績　目　録

著　書

狩野謙一（1984），6.1 ナップ構造，6.2 オリストストローム，6.3 日本でのナップ・オリストストロームの例，6.6 美濃地域の大ナップ群とオリストストローム．地質構造の科学（木村敏雄編），朝倉書店，東京，165–176，191–197．

狩野謙一（1988），寸又川層群，犬居層群，三倉層群，光明層群．植村 武）：日本の地質4，中部地方（II）（山田哲雄編），共立出版，東京，50–51．

地学団体研究会編（1996），新版 地学事典．古今書院，東京，1433p．（分担）

狩野謙一・村田明広（1998），構造地質学．朝倉書店，東京，298p．

狩野謙一・村田明広（2000），構造地質学CD–ROMカラー写真集．朝倉書店，東京．

新妻信明・石渡　明・小嶋　智・竹内　誠・荒戸裕之・海野　進・榎並正樹・狩野謙一・鈴木和博・東田和弘・立石雅昭・延原尊美・野澤竜二郎・原山　智・星　博幸・三宅　明編（2006），日本地方地質誌4，中部地方，朝倉書店，東京，564p．（分担）

天野一男・狩野謙一（2009），構造地質学．Field Geology，6，共立出版，東京，177p．

狩野謙一（2010），地形・地質から見た南アルプスの特質．私たちの世界遺産3，世界遺産登録・最新事情，長崎・南アルプス（五十嵐敬喜・西村幸夫編），公人の友社，東京，109–114．

狩野謙一（2010），南アルプス，一億年前の深海底が隆起．しずおか自然史（池谷仙之監修），静岡新聞社，静岡，16–17．

狩野謙一（2010），D 大井川流域．地学のガイドシリーズ24，新版静岡県地学のガイド（土　隆一編），コロナ社，東京，105–124．

日本地質学会構造地質部会編（2012），日本の地質構造100選．朝倉書店，東京，173p．（分担）

鈴木隆介ほか編，（印刷中），地形の辞典，朝倉書店，東京．（分担）

論　文

狩野謙一（1975），長野県，木曽－梓川地域の上部古－中生層の層序．地質学雑誌，**81**，285–300．

狩野謙一・伊藤谷生・増田俊明（1975），三浦半島衣笠付近の堆積性蛇紋岩．地質学雑誌，**81**，641–644．

狩野謙一（1978），愛知県下の領家変成岩の層序と構造．地質学雑誌，**84**，445–458．

恒石幸正・伊藤谷生・狩野謙一（1978），岩盤強度よりみた伊豆大島近海地震の道路災害．第15回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集，77–80．

木村敏雄・恒石幸正・狩野謙一・伊藤谷生（1978），伊豆–丹沢地区の基盤構造と地震動災害．第15回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集，81–84．

恒石幸正・伊藤谷生・狩野謙一（1978），伊豆大島近海地震によって東伊豆町稲取にあらわれた地震断層．第15回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集，85–88．

狩野謙一・伊藤谷生・木村敏雄（1978），“神縄衝上断層”の伊豆–丹沢の断層系における意義．第15回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集，89–92．

Tsuneishi Y., Ito T. & Kano K. (1978), Surface faulting associated with the 1978 Izu–Oshima–Kinkai Earthquake. *Bulletin of Earthquake Research Institute*, **53**, 649–674.

恒石幸正・伊藤谷生・狩野謙一（1978），岩盤強度の低下による道路災害―1978年伊豆大島近海地震の被害

—．地震研究所彙報，**53**，1069–1084．
狩野謙一・伊藤谷生・上杉　陽（1979），神縄逆断層を切る塩沢断層系の性格と変位量．第16回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集，315–318．
Kano K. (1979), Giant *deckenpaket* and olistostrome in the eastern Mino district, Central Japan. *Journal of Faculty of Science, University of Tokyo, Section II,* **20**, 31–59.
伊藤谷生・狩野謙一・上杉　陽（1980），リニアメントと断層（その1）—総説—．第17回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集，393–396．
狩野謙一・恒石幸正・上杉　陽・伊藤谷生（1980），リニアメントと断層（その2）—地質調査からみた2，3の実例．第17回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集，397–400．
狩野謙一（1981），大井川源流部原生自然環境保全地域の地質．大井川源流部原生自然環境保全地域調査報告書（日本自然保護協会），43–54．
上杉　陽・米沢　宏・千葉達郎・狩野謙一（1981），川音川断層—大磯丘陵北西縁の活断層—．第四紀研究，**20**，35–42．
上杉　陽・狩野謙一・伊藤谷生（1981），丹沢山地南部～大磯丘陵の後期第四紀断層運動．日本地質学会第88年学術大会巡検案内書，73–86．
狩野謙一（1981），秩父山地周辺の地質と地史．フィールドワーク 地質学コース巡検案内書，静岡県教育会館・静岡県教職員互助組合・静岡教育出版社，静岡県出版文化会，静岡，37p．
狩野謙一（1982），美濃–領家帯の中生層の重力滑動とそれに伴う地質構造．静岡大学地球科学研究報告，**7**，9–33．
狩野謙一（1983），安山岩質海底火山の浅部構造—伊豆半島南端部の新第三系白浜層群に見られる例—．静岡大学地球科学研究報告，**8**，9–37．
伊藤谷生・松本　良・狩野謙一・柵山雅則（1984），マグマ貫入による未固結酸性凝灰岩及び変質流紋岩礫の溶結—伊豆半島南端部新第三紀白浜層群の例—．地質学雑誌，**90**，191–205．
狩野謙一（1984），光明層群—赤石山地最南部の四万十帯白亜系—．静岡大学地球科学研究報告，**10**，55–85．
狩野謙一・上杉　陽・伊藤谷生・千葉達郎・米沢　宏・染野　誠（1984），丹沢南部・大磯丘陵周辺における中期更新世以降の断層活動．第四紀研究，**23**，137–143．
狩野謙一・村田明広（1984），本州弧の発達史におけるナップ構造とオリストストロームの意義．地学雑誌，**93**，52–60．
静岡県地学会ニュージーランド巡検団（1984），ニュージーランド地学巡検．静岡地学，**49**，21–36．
狩野謙一・鈴木勇也・北里　洋（1985），富士川上流中富地域の静川層群の古地理．静岡大学地球科学研究報告，**11**，135–153．
鈴木章世・狩野謙一（1986），地学教材として見た安部川—その1．室内作業で扱う流域の地形—．静岡地学，**53**，11–18．
狩野謙一・村松　武・廣田　豊（1986），四万十累層群の変形様式—赤石山地南部の上部白亜系に見られる例—．静岡大学地球科学研究報告，**12**，89–114．
歌田　実・伊藤谷生・松本　良・狩野謙一（1986），伊豆半島南部における火山性堆積物の層序・構造・堆積作用・変質作用．日本鉱山地質学会，1986年度秋期講習会資料，59p．
伊藤谷生・上杉　陽・狩野謙一・千葉達郎・米沢　宏・染野　誠・本間睦美（1986），最近100万年間における足柄－大磯地域の古地理変遷とテクトニクス．月刊地球，**88**，630–636．
Okada H., Niitsuma N., Kano K. & Arai S. (1986), *Guide Book of Field Excursion to Subduction and Collision*

Areas—Shizuoka, Izu and Tanzawa—, International KAIKO Conference on Subduction Zone, 36p.
鈴木章世・狩野謙一（1986），地学教材として見た安部川―その2．石コロの旅―．静岡地学，**54**，17–27．
伊藤谷生・上杉　陽・狩野謙一・千葉達朗・米澤　宏・染野　誠・本間睦美（1986），最近100万年間における足柄－大磯地域の古地理変遷とテクトニクス．月刊地球，**8**，630–636．
伊藤谷生・狩野謙一・上杉　陽・小坂和夫（1986），最近100万年間における足柄－大磯地域のテクトニクス変遷とプレート運動．月刊地球，**8**，740–742．
村田明広・小坂和夫・狩野謙一（1986），甲府深成岩体との関係からみた鶴川断層の活動時期．地質学雑誌，**92**，905–908．
土　隆一編，黒田　直・狩野謙一・茨木雅子（調査・資料収集）（1986），静岡県地質図 1: 200,000（改訂版）．内外地図株式会社．
Le Pichon X., Iiyama T., Boulegue J., Charvet J., Faure M., Kano K., Lallemant S., Okada H., Rangin C., Taira A., Urabe T. & Uyeda S. (1987), Nankai Trough and Zenisu Ridge: a deep sea submersible survey. *Earth and Planetary Science Letters,* **83**, 285–299.
Ito T., Uesugi Y., Yonezawa H., Kano K., Someno M., Chiba T. & Kimura T. (1987), Analytical method for evaluating superficial fault displacement in volcanic air fall deposits: case of the Hirayama Fault, south of Tanzawa Mountains, central Japan, since about 21,500 years B.P. *Journal of Geophysical Research,* **B10**, 10683–10695.
狩野謙一・佐藤博文（1988），境峠断層（木曽山地北部－飛騨山地南部の活断層）の基盤岩変位量．地質学雑誌，**94**，51–54．
Kano K. & Sato T. (1988), Foliated fault gouges: examples from the shear zones of the Sakai–toge and Narai Faults, Central Japan. *Journal of Geological Society of Japan,* **94**, 453–456.
Kano K. & Matsushima N. (1988), The Shimanto Belt in the Akaishi Mountains, eastern part of SW Japan. *Modern Geology,* **12**, 97–126.
狩野謙一・染野　誠・上杉　陽・伊藤谷生（1988），足柄地域北西部における中期更新世以降の断層活動―“プレート力学境界”表層部での変形過程の例―．静岡大学地球科学研究報告，**14**，57–83．
狩野謙一（1988），赤石裂線の中新世以降における左横ずれ運動．地質学雑誌，**94**，629–632．
土　隆一・黒田　直・狩野謙一・茨木雅子（1988），土地分類基本調査・表層地質図，千頭1:50,000，および同説明書，静岡県，42–43．
Ito T., Kano K., Uesugi Y., Kosaka K. & Chiba T. (1989), Tectonic evolution along the northernmost border of the Philippine Sea plate since 1 Ma. *Tectonophysics,* **160**, 305–326.
Kano K. (1989), Interactions between andesitic magma and poorly–consolidated sediments: examples in the Neogene Shirahama Group, south Izu, Japan. *Journal of Volcanology and Geothermal Research,* **37**, 59–75.
土　隆一・狩野謙一・藤吉　瞭（1990），土地分類基本調査・表層地質図，佐久間1:50,000，および同説明書，静岡県，59p．
Kano K., Kosaka K., Murata A., & Yanai S. (1990), Intra–arc deformations with vertical rotation axes: the case of the pre–Middle Miocene terranes of Southwest Japan. *Tectonophysics,* **176**, 333–354.
狩野謙一・小坂和夫・村田明広・柳井修一（1990），先新第三系中に発達する鉛直に近い回転軸を持つ様々な形態の褶曲（屈曲）―中期中新世における西南日本の時計回り回転と関連して―．構造地質，**35**，11–21．

新妻信明・大塚謙一・狩野謙一・和田秀樹・佐藤隆一・渋谷朝紀・竹内真司・吉田智治・大浦坂勝利（1990），駿河トラフにおけるプレート沈み込みの直視観察．第6回「しんかい2000」研究シンポジウム報告書，261–276．

Kano K., Nakaji M. & Takeuchi S. (1991), Asymmetrical mélange fabrics as possible indicators of the convergent direction of plates: a case study from the Shimanto Belt of the Akaishi Mountains, central Japan. *Tectonophysics*, **185**, 375–388.

狩野謙一・竹内真司・中路正弥（1991），メランジュ中の非対称変形組織―四万十帯における例―．静岡大学地球科学研究報告，**17**，63–85．

竹内真司・狩野謙一（1991），四万十帯メランジュの変形過程―地質学的データに基づく比較沈み込み学．静岡大学地球科学研究報告，**17**，87–129．

狩野謙一（1992），日本列島の大屈曲―地殻内部の変形との関連．月刊地球，**156**，350–351．

土　隆一・狩野謙一（1992），土地分類基本調査・表層地質図，井川1:50,000，および同説明書，静岡県．

唐沢　譲・狩野謙一（1992），赤石山地東部の四万十帯，瀬戸川層群中のスレート帯の形成とその変形過程．地質学雑誌，**98**，761–777．

狩野謙一（1992），野外地質調査の基礎．古今書院，東京，148p．

小山真人・新妻信明・狩野謙一・高木圭介・内村竜一・吉田智治・唐沢　譲・田邊裕高（1992），駿河トラフ伊豆側斜面の地質とテクトニクス―「しんかい2000」第579潜航の成果―．海洋科学技術センター試験研究報告，第8回「しんかい」研究シンポジウム特集，145–161．

狩野謙一・田中秀実・吉田智治・松井信治（1993），赤石構造帯のテクトニクス―中期中新世における西南日本東部の地殻改変と関連して―．地質学論集，**42**，203–223．

田邊祐高・唐沢　譲・狩野謙一（1994），イライト結晶度による付加帯の続成～弱変成度の検討：赤石山地四万十帯での例．構造地質，**39**，260–262．

田邊裕高・狩野謙一（1994），紀伊半島東部，海山地域の四万十帯白亜系．静岡大学地球科学研究報告，**21**，1–10．

荒井良祐・伊藤谷生・宮内崇裕・狩野謙一・村田明広・山北　聡・長谷川修一・澤田臣啓（1995），野島断層に伴う地表断層変位と地質構造．シンポジウム「阪神・淡路大震災と地質環境」論文集，21–24．

Kano K. (1995), Early deformation fabrics of melanges in the Mesozoic Waipapa Terrane, North Island, New Zealand. *The Island Arc*, **4**, 69–87.

Tanabe H. & Kano K. (1996), Illite crystallinity study of the Cretaceous Shimanto Belt in the Akaishi Mountains, eastern Southwest Japan. *The Island Arc*, **5**, 56–68.

上杉　陽・伊藤谷生・米澤　宏・染野　誠・千葉達朗・狩野謙一（1996），伊豆半島北縁の平山断層―テフラからみたその変遷史―．第四紀露頭集―日本のテフラ，日本第四紀学会，東京，210–211．

狩野謙一（1997），イライト結晶度からみた付加体泥質岩の続成～弱変成度．月刊地球，**19**，173–178．

伊藤谷生・狩野謙一・金川久一・木村克己・嶋本利彦・小坂和夫（1998），21世紀に向けての構造地質学．地質学論集，**50**，57–60．

狩野謙一・高木秀雄・金川久一・木村克己・伊藤谷生・山路　敦・小坂和夫編（1998），21世紀の構造地質学にむけて．地質学論集，**50**，263p．

狩野謙一（1998），付加体の構造地質学－四万十帯を中心とした研究の現状と問題点．地質学論集，**50**，107–130．

Kano K. & Takeda M. (1998), Subvertically–plunging, map–scale folds in the Neo Syntaxis area in Southwest

Japan: intra–arc deformation associated with the opening of Sea of Japan? *In*: Koh H. J. & Lee B. J. (eds.) *Tectonic Evolution of East Asia*: The First Joint Meeting of Japanese and Korean Structure and Tectonic Research Group, Seoul, 54–59.

狩野謙一（1998），光明断層．カタログ：日本の断層と断層岩（小坂和夫・大友幸子・高木秀雄・豊島剛志・田中秀実・越谷　信・嶋本利彦編），日本大学文理学部自然科学研究所，東京，101–102．

狩野謙一（1999），付加体における震源域物質科学．月刊地球，**21**，38–44．

狩野謙一・竹田正司（1999），美濃–丹波帯に発達する急傾斜した軸を持つ地質図規模の褶曲―琵琶湖北方の野坂山地に見られる例―．地質学雑誌，**105**，435–449．

Kano K. (1999), Recent progress of structural geology of accretionary complexes in Japanese Islands. *In*: Takagi H., Otoh S. & Kimura K. (eds.) *Tectonic Evolution of East Asia*, The Second Joint Meeting of Korean and Japanese Structure and Tectonic Research Groups, Samani, Hokkaido, 12–15.

狩野謙一（1999），美濃–丹波帯の地質大構造と活断層系．月刊地球，**21**，617–622

小西祐作・鈴木将之・狩野謙一，（2000），イライト結晶度データのCIS標準化：静岡大学理学部地球科学教室の場合．静岡大学地球科学研究報告，**27**，11–15．

林　愛明・狩野謙一（2000），変位地形と基盤岩の構造から推定される活断層の活動史―木曽山地を横切った飯田–松川断層と境峠–神谷断層を例に―．号外地球，**31**，34–45．

林　愛明・狩野謙一・丸山　正（2000），2000年鳥取県西部地震による液状化と被害．構造地質，**44**，1–4．

林　愛明・狩野謙一・丸山　正（2001），2000年10月6日，鳥取県西部地震による液状化現象．応用地質，**42**，38–41．

Kano K. & Konishi Y. (2001), Deformation processes in the shallow levels of an accretionary prism: the Mesozoic Torlesse Terrane, South Island, New Zealand. *The Island Arc,* **10**, 158–174.

狩野謙一・林　愛明・丸山　正（2001），飛騨山地南部・境峠断層の第四紀後期の活動性．第四紀研究，**40**，213–210．

狩野謙一（2001），地質構造の見方．深田研ライブラリー特別号，深田地質研究所，東京，196p．

狩野謙一（2001），赤石山地（南アルプス）のできるまで．南アルプスの山旅―地形・地質観察ガイド―（村松　武・四方圭一郎・下平　勉編），飯田市美術博物館，109–117．

狩野謙一（2001），付加体の地質構造の見方．深田研ライブラリー39，深田地質研究所，東京，29p．

狩野謙一・丸山　正・林　愛明（2002），飛騨山地南部，境峠断層の後期更新世–完新世における活動．地質学雑誌，**108**，291–305．

林　愛明・狩野謙一・丸山　正（2002），鳥取県西部地震によるスロー型の液状化現象．月刊地球号外，**38**，215–219．

狩野謙一（2002），美濃－丹波帯に発達する急傾斜した軸を持つ地質図規模の褶曲－基盤構造からみた柳ヶ瀬断層の起源．地質学雑誌，**108**，591–605．

Lin A., Fu B., Kano K., Maruyama T. & Guo J. (2002), Late Quaternary right–lateral displacement along the active faults in the Yanqi Basin, southeastern Tian Shan, northwest China. *Tectonophysics,* **354**, 157–178.

狩野謙一（2002），伊豆弧衝突にともなう西南日本弧の地殻構造改変．地震研究所彙報，**77**，231–248．

Fu B., Lin A., Kano K., Maruyama T. & Guo J. (2003), Active faulting in the northeastern Pamir, NW China. *Xinjiang Geology,* **21**, 1–8.

Lin A., Fu B., Kano K., Maruyama T. & Guo J. (2003), Late Quaternary dextral shearing of the active faults in Yanqi Basin. *Xinjiang Geology,* **21**, 103–115. (in Chinese with English abstract)

Fu B., Lin A., Kano K., Maruyama T. & Guo J. (2003), Quaternary folding of the eastern Tian Shan, northwest China. *Tectonophysics*, **369**, 79–101.

狩野謙一・北村晃寿編（2003），日本地質学会第110年学術大会見学旅行案内書．日本地質学会，東京，163p．

狩野謙一・村松　武（2003），赤石山地南部の四万十帯．日本地質学会第110年学術大会見学旅行案内書（狩野謙一・北村晃寿編），日本地質学会，東京，67–81．

郭　建明・付　碧宏・林　愛明・狩野謙一・丸山　正（2003），Yanqi盆地における活構造の衛星画像の解析．地震地質，**25**，195–202．（in Chinese with English abstract）

Fu B., Lin A., Kano K., Maruyama T. & Guo J. (2004), Application of stereoscopic satellite images for studying Quaternary tectonics in arid regions. *International Journal of Remote Sensing*, **25**, 537–547.

Fu B., Awata Y., Kano K., Lin A. & Tsukuda E. (2003), Coseismic surface deformation and engineering damage associated with the large strike–slip faulting: Lessons from the 2001 Mw7.8 central Kunlun earthquake. *Annual Reports on Active Fault and Paleoearthquake Researches, Geological Survey of Japan, AIST*, **3**, 191–209.

杉山祐規子・狩野謙一・Satish–Kumar M．（2004），赤石山地四万十帯，上部白亜系犬居メランジュ形成時・形成後の温度圧力条件：流体包有物による検討．静岡大学地球科学研究報告，**31**，5–12．

狩野謙一・林　愛明・福井亜希子・田中秀人（2004），糸魚川－静岡構造線活断層系，下円井断層に伴う粉砕起源のシュードタキライト．地質学雑誌，**12**，779–790．

佐藤比呂志・児島悠司・村田明広・伊藤谷生・金田義行・大西正純・岩崎貴哉・於保幸正・荻野スミ子・狩野謙一・河村知徳・蔵下英司・越谷　信・高須　晃・竹下　徹・津村紀子・寺林　優・豊原富士夫・中島　隆・野田　賢・橋本善孝・長谷川修一・平田　直・宮内崇裕・宮田隆夫・山北　聡・吉田武義・Harder S.・Kaip G.・小澤岳史・井川　猛（2005），西南日本外帯の地殻構造：2002年四国－瀬戸内海横断地殻構造探査の成果．地震研究所彙報，**80**，53–71．

Lin A., Maruyama T., Stallard A., Michibayashi K., Camacho A. & Kano K. (2005), Propagation of seismic slip from brittle to ductile crust: Evidence from pseudotachylyte of the Woodroffe thrust, central Australia. *Tectonophysics*, **402**, 21–35.

福井亜希子・狩野謙一（2006），5.4．金山ユニットのテクトニックメランジュ：白亜紀最前期における左斜め沈み込みによる付加ユニット．日本地方地質誌4，中部地方（日本地質学会編），朝倉書店，東京，222–223．

狩野謙一・村松　武（2006），8.6．寸又川層群の砂岩泥岩互層：付加された深海底～海溝充填堆積物．日本地方地質誌4，中部地方（日本地質学会編），朝倉書店，東京，262–263．

狩野謙一・村松　武（2006），15.3．甲斐駒・鳳凰花崗岩：屈曲した赤石山地基盤岩に貫入する外帯花崗岩．日本地方地質誌4，中部地方（日本地質学会編），朝倉書店，東京，360–361．

狩野謙一・河本和朗（2006），19.9．糸魚川－静岡構造線新倉露頭：西南日本と南部フォッサマグナの境界断層の代表露頭．日本地方地質誌4，中部地方（日本地質学会編），朝倉書店，東京，444–445．

Lin A., Guo J., Kano K. & Awata Y. (2006), Average slip rate and recurrence interval of large magnitude earthquakes on the western segment of the Kunlun fault, northern Tibet. *Bulletin of Seismological Society of America*, **96**, 1591–1611.

Fukui A. & Kano K. (2006), Deformation process and kinematics of mélange in the Early Cretaceous accretionary complex of the Mino–Tamba Belt, eastern Southwest Japan. *Tectonics*, **26**, doi:10, 1029/2006TC001945

Lin A., Kano K., Guo J. & Maruyama T. (2008), Late Quarternary activity and dextral strike–slip movement on

the Karakax Fault Zone, northwest Tibet. *Tectonophysics,* **453**, 44–62.

Ikeda Y., Iwasaki T., Kano K., Ito T., Sato H., Tajikara M., Kikuchi S., Higashinaka M., Kozawa T. & Kawanaka T. (2008), Active nappe with a high slip rate: Seismic and gravity profiling across the southern part of the Itoigawa–Shizuoka Tectonic Line, central Japan. *Tectonophysics,* **472**, 72–85.

Ikeda Y., He H., Kano K., Lin W., Ishiyama T., Zhang H., Wei Z. & Shi F. (2009), Geological reconnaissance of the source area for the Wenchuan, Sichuan province, Earthquake of May 12, 2008. *Investigation Report of the 2008 Whenchuan Earthquake, China, Grant–in–Aid for Special Purposes of 2008,* Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan, Tokyo, No.2090000. http://shake.iis.u–tokyo.ac.jp/whenchuan,report/drafts/Ch07–01–241–272ikeda.pdf

狩野謙一・横幕早季（2008），糸魚川–静岡構造線・西山温泉露頭．静岡地学，**97**，i –iii．

狩野謙一（2008），南アルプスを世界自然遺産・ジオパークに．静岡地学，**99**，i –iii．

池田安隆・岩崎貴哉・狩野謙一・伊藤谷生・佐藤洋比呂志・阿部信太郎（2010），3.1 断層帯の地下構造解明のための反射法地震探査および重力探査．糸魚川－静岡構造線断層帯における重点的な調査観測，平成17～21年度成果報告書，地震調査研究推進本部，東京，6–72．http://www.jishin.go.jp/main/chousakenkyuu/itoshizu_juten/h21/chap3_1.pdf

杉山雄一・水野清秀・狩野謙一・村松　武・松田時彦・石塚　治・及川輝樹・高田　亮・荒井晃作・岡村行信・実松健造・高橋正明・尾山洋一・駒澤正夫（2010），20 万分の1地質図幅「静岡及び御前崎」（第2版）．産業技術総合研究所地質調査総合センター，つくば．

南アルプス世界自然遺産登録協議会・南アルプス総合学術検討委員会（2010），南アルプス学術総論，静岡，134p．（地形・地質部会担当分，村松　武・河本和朗・輿水達司と共著）

末岡　茂・Kohn B. P.・田上高広・長谷部徳子・堤　浩之・田村明弘・荒井章司・狩野謙一・池田安隆・白濱吉紀（2011），低温領域の熱年代学から見た木曽山脈・赤石山脈の傾動隆起．フィッション・トラック ニュースレター，**2**，68–69．

末岡　茂・Kohn B. P.・池田安隆・狩野謙一・堤　浩之・田上高広（2011），低温領域の熱年代学的手法に基づいた赤石山脈の隆起・削剥史の解明．地学雑誌，**120**，1003–1012．

狩野謙一・久保田広亮（2011），南アルプス東部，早川沿いの糸魚川－静岡構造線観察ガイド（案内看板およびパンフレット）．山梨県南巨摩群早川町教育委員会．

狩野謙一（2012），糸魚川－静岡構造線新倉露頭の断層上盤側の崩落．日本地質学会 *News*，**15**（2），10–11．

Lin A., Shin J.–H. & Kano K. (2012), Fluidized cataclastic veins along the Itoigawa–Shizuoka active fault system. Central Japan, and its seismotectonic implications. *Journal of Geology,* **120**, 453–465.